

市民・事業者の行動指針

循環型社会形成推進基本計画では、廃棄物処理の優先順位を「発生抑制」（リデュース）→「再使用」（リユース）→「再生利用」（リサイクル）→「熱回収」→「適正処分」と定めており、ここでは本市の基本理念である「ごみの３Ｒ」は最初の３ステップに位置付けられています。

そこで、本計画では３Ｒの段階別に大人・子ども・事業者のそれぞれの行動指針を提示し、日常生活ですぐに実行できる取り組みを紹介します。ライフスタイルを見直すきっかけとしてこの行動指針を活用し、橋本市の全員・全体でごみの３Ｒを推進していきましょう。



[作]High Moon（京エコロジーセンター館長 高月 紘）

1st STEP **Reduce (リデュース) - 発生抑制 -**

○マイバッグを持って買い物に行きましょう

和歌山県では、ごみ減量や二酸化炭素の排出抑制を目的に県内全域のスーパーで配られるレジ袋を平成 21 年 1 月 23 日より有料化し、オークワ、松源、イオン、イズミヤなどの 15 事業者とともに「わかやまノーレジ袋推進協議会」を設置しています。

レジ袋は全国で 1 年間に約 300 億枚使われています。これは、1 人が年間に約 230 枚、1 週間に 4 枚ほど使っているということです。世帯でみると、1 世帯が年間に約 600 枚、1 週間に 12 枚となります。

仮に本市において市民 1 人 1 人が週 1 回レジ袋を断ると、年間約 36 t (10g/袋×69,121 人×52 週÷10⁶) の減量となります。

買い物に行く際にはマイバッグを持参し、レジ袋は必要分のみ購入するようにしましょう。



○過剰包装はNO、詰め替え商品や裸売り・量り売り商品を選びましょう

環境省の見解では、家庭から出るごみの重さにして約 20～30%、かさ（容積）にして約 60%を容器包装類が占めているといわれています。

デパートなどで買い物をするとき、自分用の買い物であれば包装紙に包んでもらわず、商品に店舗のシールを貼ってもらうことで済ませることができます。また最近では贈答品でも従来の包装か簡易包装かを選択できるサービスもできています。

このほか、ボトルに入ったシャンプーや洗剤などは詰め替え商品を選ぶ、食材については裸売りや量り売りのものを選ぶことで、ごみとなる容器包装の量を減らすことができます。

例えば、洗剤のボトル（60 g/本）を、詰め替え商品（10 g/袋）に変えた場合、1 回の買い物で 50 g の減量ができます。



○使い捨て商品は控えましょう

平成 13 年度に内閣府が行った世論調査では、「ごみ問題の原因は何か」という質問に対して、65%の人が「使い捨て商品が身の回りに多すぎる」と回答しています。

使い捨てであるメリットもありますが、本当に必要なものかどうかを見極め、使い捨て商品を減らす努力をしましょう。

例えば、割り箸は年間 1 人 200 膳使用されていると言われますが、コンビニエンスストアなどで割り箸を断り使用量を 1/2 にすれば、年間で 1 人あたり 500 g (5 g / 膳 × 100 膳) の減量ができます。

また、キッチンペーパーの代わりにふきん、紙コップの代わりにマイコップを使えば、どんどんごみは減っていきます。

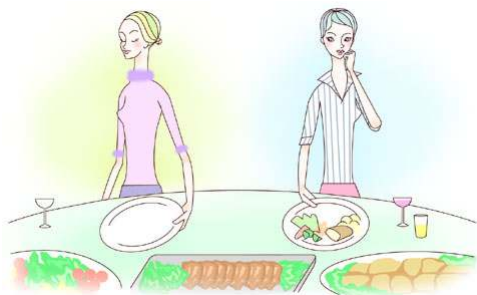


○食べ残しをしないようにしましょう

農林水産省の調査によると、家庭での 1 人 1 日あたりの食品使用量は平成 16 年度で 1,141 g、そのうち食べ残し等による食品ロス量は 48 g (4.2%) となっています。

仮に食品ロス量を半分に削減した場合、本市全体では年間約 605 t (48 g / 人・日 × 1/2 × 69,121 人 × 365 日 ÷ 10⁶) も減量することができます。

また、エコクッキングを心がけて調理くずを少なくするとともに、出ってしまった調理くずはしっかり水切りをし、また堆肥化を行うことで、大きな減量に繋がります。



2nd STEP Reuse (リユース) - 再使用 -

○まだ使えるものは、必要としている人に譲りましょう

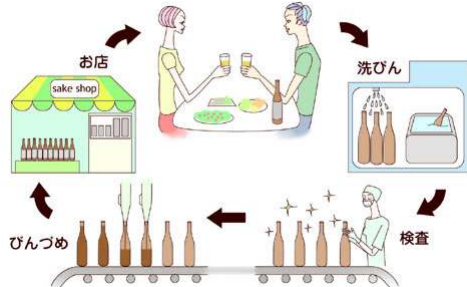
本や家具などが不要になったときは、フリーマーケットやリサイクルショップへ持って行ったり、ネットオークションに出したりしましょう。

このほかにも、子ども服や着なくなった学生服は、小さい子どもがいる知り合いに譲るなど、まだまだモノを活用できる範囲は広がります。



○1回でごみになる容器ではなく、何度も使えるリユース容器を使いましょう

リユース容器の代表は、ビール瓶や一升瓶などのリターナブルびんです。これらは使用後洗浄することで10回以上使用することができます。このほかにも、台所でラップの代わりに使うリターナブル容器や、イベント会場で導入されつつあるリユースカップなどがあります。



○チャイルドシートやスーツケースはレンタル用品も活用しましょう

短期間の単身赴任や一時的な通学、育児などに使うものは、買わずにレンタルするという考え方があります。レンタル商品は複数の人に長期間に渡って使われるため、物を十分に活用することができます。

粗大ごみは日々の生活では減らしにくいと思いがちですが、視点を変えれば大きな発生抑制に取り組むことができます。

○裏面に印刷のない広告チラシはメモ用紙として使いましょう

本市で排出される資源ごみのうち、最も排出量の多いものは古紙・古布類であり、集団回収も合わせると年間 3,000 t 近くが排出されています。新聞広告などで裏面に印刷のない紙は、捨てずにメモ用紙として使いましょう。

3rd STEP **Recycle (リサイクル) – 再生利用 –**

○集団回収、拠点回収を利用しましょう

もっとも身近で簡単に出来るリサイクルは、地域の集団回収やスーパーなどの拠点回収にごみを出すことです。また、廃食用油についても、本市が回収を進めています。まずは、身近なリサイクルに取り組みましょう。

○リサイクル可能なごみにして出しましょう

缶やびん、ペットボトル、その他プラ製容器包装は、汚れが付着しているとリサイクルできず焼却または埋め立てられることとなります。資源ごみを出すときには、「ごみの減量と分別のガイドブック」に従って、リサイクル可能なごみにして出すようにしましょう。

○お祭り・屋台の使い捨て容器は分別してリサイクルをしましょう

夏祭りや秋祭りでは、屋台が立ち並び、さまざまな食べ物・飲み物が提供されていますが、ここで使われている容器はすべて一緒にごみ袋に入れられてしまいます。まずは分別・リサイクルをするところから始めましょう。

市内のある地域では、夜店が開かれたときにごみ袋 1,000 枚を配布し、ごみを持ち帰ってもらう活動も始まっています。こうすれば、家で分別・リサイクルすることができます。お住まいの地域では、どんな取り組みができるでしょう。

○リサイクルされた商品を買いましょう

リサイクルされた商品が消費されないとリサイクルの意味がありません。回収した牛乳パックや食品トレイなどを原材料にして製造したリサイクル商品を積極的に選び、利用しましょう。目印として、再生品などの環境ラベルがついている商品を探してみましょう。



Special STEP

○グリーンコンシューマーになりましょう

消費者自らが環境負荷の少ない商品やサービスを選ぶことによって、事業活動や社会を環境に配慮した方向に変えていくことができます。このような選択ができる消費者を、「グリーンコンシューマー」と呼びます。

「グリーンコンシューマー活動」とは、1988年のイギリスで、「グリーンコンシューマー・ガイド (The Greenconsumer Guide)」の出版とともに広まった、市民の環境行動のスタイルです。日本では、グリーンコンシューマー全国ネットワークが活動を行っています。

< グリーンコンシューマー10原則 >

- (1) 必要なものを必要な量だけ買しましょう
- (2) 使い捨て商品ではなく、長く使えるものを選びましょう
- (3) 包装のないものを最優先し、次に最小限のもの、容器は再使用できるものを選びましょう
- (4) 作るとき、使うとき、捨てるとき、資源とエネルギー消費の少ないものを選びましょう
- (5) 化学物質による環境汚染と健康への影響の少ないものを選びましょう
- (6) 自然と生物多様性をそこなわないものを選びましょう
- (7) 近くで生産・製造されたものを選びましょう
- (8) 作る人に公正な分配が保障されるものを選びましょう
- (9) リサイクルされたもの、リサイクルシステムのあるものを選びましょう
- (10) 環境問題に熱心に取り組み、環境情報を公開しているメーカーや店を選びましょう

[出典]グリーンコンシューマー全国ネットワーク

○ごみ出しは責任を持って

市内のある地域では、ごみ収集日に、収集車がごみを持って行ったあと、ごみを出した人全員が、自分のごみが不適正として残っていないかどうかステーションを確認するという活動が始まっています。

みなさんの地域でも、一部の世話役さんだけが不適正ごみの後始末に手を焼くことのないよう、自分が出したごみに最後まで責任を持って、ごみのないきれいな地域環境をつくっていきましょう。

わたしたちのまちでは、いろいろなごみをリサイクルしたり、ごみを減らす工夫をしています。わたしたちには、どんなことができるかな。

〇おうちで

缶やビンや新聞紙やプラスチックは、きちんと分別して、決められた日に出しましょう。そうするとごみが資源として生まれ変わります。

また、おうちで使わなくなったり要らなくなったものは、バザーやフリーマーケットに出して、欲しい人に譲ってあげましょう。



〇学校で

鉛筆や消しゴムは最後まで使い切りましょう。給食も残さずに食べましょう。ひとりひとりの心がけで、ごみはどんどん少なくなります。

また、図書館やパソコンで環境ラベルを調べてみましょう。地球にやさしいものを見分けるための、ラベルです。いくつ見つけられるかな。



○お買い物にいったら

お買い物には、自分だけのマイバッグをもってでかけましょう。お店で売っているナイロン袋は、おうちに帰ればごみになってしまいます。

お店についたら、詰め替え商品を探してみましょう。シャンプーや洗剤などは詰め替え商品を買うほうが、ごみが少なくてすみます。

お店を出るときには、入口に回収ボックスを探してみましょう。きれいに洗ったトレイや牛乳パックをここに入ると、きちんとリサイクルしてくれます。

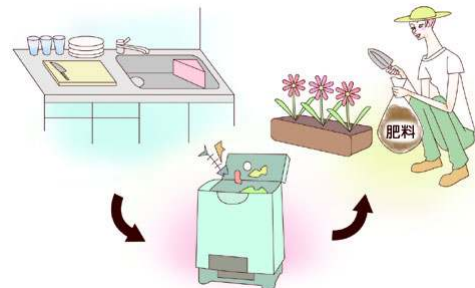


○アイデアを

お料理をしたあとの野菜くずなどの生ごみは、花壇や畑の肥料になります。

天ぷらをしたあとのあまった油は、ガソリンの代わりに使われます。使い終わった歯ブラシは、お掃除のときに役立ちます。

みんなのアイデアが、ごみの少ない社会を作っていきます。



事業者の行動指針

○事務所

- ・コピー用紙は両面とも使った後、リサイクルしましょう。
- ・文房具は再生品やリサイクル商品、詰め替え商品を選びましょう。
- ・コーヒーは湯のみやコップで飲み、使い捨てカップの使用を減らしましょう。
- ・社内の取り組みを整備し、環境マネジメントシステムを導入しましょう。

〈コラム：コピー用紙〉



オフィスで出る紙の量は、平均するとだいたい1ヶ月に1人あたり4kg。これは、コピー機の横に積んであるA4用紙500枚入りのパッケージ2つつ分に相当します。オフィス古紙をリサイクルすれば、これだけの量を活かすことができます。

ちなみに、経済産業省発表の「紙・パルプ統計」によると、2000年の日本の古紙回収率は58.0%、また古紙利用率は57.0%となっています。

○製造業

- ・長寿命で修理可能な製品を開発しましょう。
- ・修理やリサイクルのしやすい素材の使用、設計をしましょう。
- ・運搬資材や梱包資材の省資源化・再使用を進めましょう。
- ・容器のリターナブル化やデポジット制度を検討しましょう。

〈コラム：充電式電池〉



電池の生産量、2000年の統計では、使いきりの一次電池が約51億1千万個、充電できる二次電池は約21億7千万個あります。ものすごい量の電池が毎年作られているんですね。

さまざまな製品に使われている電池。携帯電話やポータブルMDなどでは当たり前の「充電式電池」ですが、乾電池を使う製品でも充電式の電池に切り替えることもできます。試してみませんか？

○販売業

- ・過剰包装を控え、簡易包装への協力を呼びかけましょう。
- ・賞味期限切れ商品の廃棄をなくしていきましょう。
- ・量り売りなど、包装について消費者が選べる体制を作りましょう。
- ・有料化やスタンプ制などのマイバッグ持参運動を導入しましょう。

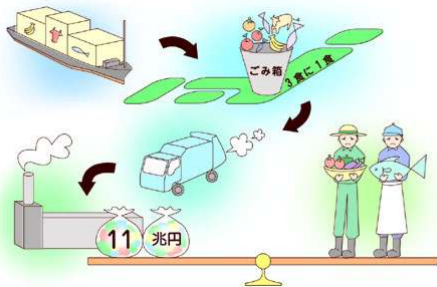
○飲食業

- ・割り箸や使い捨ておしぼりをやめましょう。
- ・生ごみの出ない調理を工夫し、出たものは堆肥化をしましょう。
- ・廃食用油の分別排出、リサイクルを推進しましょう。
- ・個包装の砂糖やミルクは置かないようにしましょう。

○旅館業

- ・シャンプーや石鹸は、詰め替え商品を採用しましょう。
- ・調理の無駄やメニューの精査を行い、食べ残し等を減らしましょう。
- ・業種や地域単位で協働して生ごみリサイクルに取り組みましょう。

〈コラム：充電式電池〉



日本の食料自給率は、平成 11 年度の推計でわずか 40%でしかありません。一方で、平成 10 年度に日本国内で食べ残して捨てられた残飯の量は、約 700 万トン。わざわざ輸入してきていながら、大量の食料を食べずに捨てているのが日本という国の実情なのです。

この、食べずに捨てられたものの価値は、実に年間で約 11 兆円にのぼります。これは日本の農林水産業の年間生産額とほぼ同じ額に相当します。

つまり、一方で農家が苦労して作物を育てたり、漁師が一生懸命魚介類をとっている、その一方でそれに見合う分の食料を捨てているという生活を、今の私たち日本人は送っているのです。